

## 駒ヶ根市文化財

名称	灰釉双耳壺
種別	考古史料
指定	市・有形文化財(平成元. 9.21)
所在地	駒ヶ根市立博物館
出土地	駒ヶ根市赤穂上赤須 中通り下遺跡
所有者	駒ヶ根市
説明	<p>この灰釉双耳壺(かいゆうそうじこ)は、昭和 35 年(1960)に中通り下遺跡より市道工事中に発見されたものである。この壺と一緒に灰釉(かいゆう)の耳皿や須恵器の埴瓶(ていへい)・坏(つき)・短頸壺(たんけいこ)、土師器(はじき)の皿が出土している。発見された時の詳細な記録は残っていない。</p> <p>両側に耳を持つことから双耳壺と呼ばれており、高さ 18.8cm 口径 11.2cm 胴径 19.2cm 底径 17.0cm を測る。愛知県の猿投(さなげ)の窯で焼かれたもので、刷毛塗りによる灰釉は淡緑色を呈し、釉薬(ゆうやく)はムラが著しい。時代は平安時代 10 世紀のものである。</p> <p>10 世紀前半に主として火葬蔵骨器として用いられており、もともとは蓋が一緒にあったものと思われるが確認されていない。</p> <p>灰釉陶器の優品であるとともに、文化の伝播を知る資料として重要なものとして、市の文化財に指定された。</p> <p>中通り下遺跡は、赤穂上赤須中通り地籍にあり、南は上穂沢川が深い谷を形成し、北には鼠川が流れている。遺跡はこの両河川に挟まれた台地にある。</p> <p>昭和 53 年(1978)に遺跡の一部分の発掘調査が行われ、水田の下から墳丘が削られて周溝のみ残した 6 世紀初めの古墳が確認されている。これは上伊那の古墳の中でも最も古い時期のものである。さらに古墳と同時代から平安時代にかけての集落が確認されており、両河川の湿地帯を利用して古くから稲作が行われていたことがはっきりしてきた。遺跡は東西に続くかなり大規模な集落であったものと考えられる。</p> <p>注目すべきものとしては、この遺跡から出土した古墳時代の須恵器の中に、美濃産に混じって須恵器初現期の大阪市堺市の陶邑(すえむら)産のものがあり、大和朝廷との関連を窺い知ることが出来ることである。</p> <p>これらのことから古東山道の道筋に当たるものとして重要な遺跡である。</p>

